



中丹高次脳機能障害者と家族の会

“さくらの会”便り

No100号 2016.8.6

発行責任者
会長 粟野勝彦
編集責任者
世話役代表 上原栄
Tel.0773-22-7859

—リラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えるところ—

“さくらの会”便りが 100号になりました

平成17年5月20日福知山市総合福祉会館で中丹脳障害者と家族の会が設立され、同年6月1日に “さくらの会” 便り1号が発行されました。 それから11年、今回で100号に到達することができました。

これも皆様方をはじめ、関係者の方々のご協力のおかげと思っています。
当時のお世話になった方々から、祝福のメッセージをいただきました。

おめでとうございます

「さくらの会便り」100号おめでとうございます！

平成16年7月に福知山市で高次脳機能障害の講演会を開催してから、早いもので12年の歳月が流れました。当時は「高次脳機能障害」ということばもあまり知られていない中、さくらの会のみなさんが京都北部でお互いの悩みを笑顔で支え合い、支援の輪を広げていかかる「さくらの会」の取組みに、いつも勇気と元気をいただきてきました。

「継続は力なり」といいますが、ご家族、支援者のみなさんの不斷の努力に心から感謝を申し上げます。これからも「さくらの会便り」は当事者、家族、そして支える支援者、医療、福祉関係者の「灯台」とし



て、京都北部からの発信を続けていただければと願っています。

福知山市障害者生活支援センター「青空」
村松 充（当時の設立呼びかけ人）

ご協力の賜物です

平成16年、旧「青空」様の呼びかけから脳障害者の社会参加支援を考える集いから始まった、高次脳機能障害当事者と家族の集いが月一回開催され翌17年5月に「さくらの会」が設立され活動が始まり前会長の高橋さんの地道な努力と現世話役さんのご協力で便りが100号の節目を迎える事になりました。これも偏に関係各位はじめ、さくらの会会員さんのご協力の賜物と思います。今後も地道ではありますが、高次脳機能障害や当事者、家族の情報発信の一つとして役に立てばと思います。

会長 粟野勝彦

ただただ役員の皆様ご苦労様です。
さくらの会が長く続きますように、微力
ですが役に立ちたいと思います。

(山添敦子)

「さくらの会便り」100号おめでと
うございます。歴史を感じます。
新体制になり、便りも本格的に、新し
くグループ訓練も始まり、高次脳機能
障害患者にとっては大きな助けになる
会です。世話役の皆さんにありがとうございます
のお礼を申し上げます。ますますの発
展を期待しております。

援助会員より

暑い日が続いています。皆さ
ん元気にしてますか。
グループ訓練が始まって4回
目、当事者も家族も頑張って
います。

100号達成おめでとう。

(山本静子)

100号達成おめでとう。
これからもよろしくお願ひし
ます。

会員からの一言欄があれば、
もっと楽しくなるかも・・・。

(塩見民江)

お便りの発行をここまで継続してこられたこと、決して簡単なことではなかっ
たと思います。

当時の会長の高橋さんは、「パソコンは苦手で・・」と言いながら、時には徹
夜をして打たれていたと思います。出来たお便りもいつも封筒に入れて、ラベル
シールを作り、行政や関係機関に手渡しして回られていました。そこで担当者と
顔を合わせて対話することを、とても大切にされておられました。私もレイアウト
などお手伝いを頼まれるものの、まったくセンスがないものですから、却って
おじやまをしているような気がして心苦しかったのも、今となっては懐かしい思
い出です。

今は便利に、メールでいただけるようにな
りましたが、1号1号プリントして、大切に
読ませていただいています。皆さまの笑顔や
活動の様子が思い浮かぶような便り、そして
継承されている「リラックスできるところ」
という言葉を見て、私もほっとした気持ちに
させてもらっています。

生活支援センター「えがお」
大石美也子



●編集後記
100号まで、続けて
こられたこと本当に皆さ
んのおかげだと思ってい
ます。
当事者家族をかかえて
発行を続けてこられた、
前会長高橋さんをはじめ
関係者の方々に感謝いた
します。